

土砂災害に関する主な防災気象情報

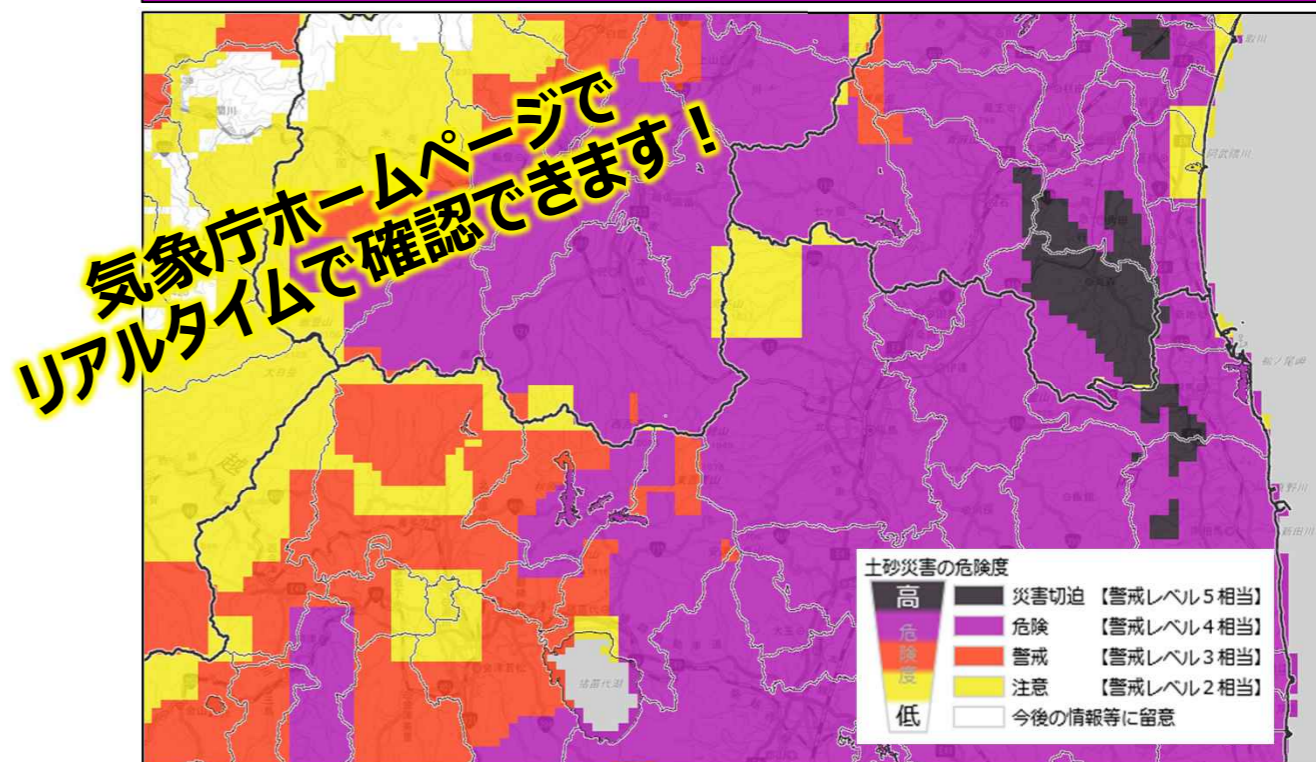
大雨警報（土砂災害）	大雨により、重大な土砂災害が発生するおそれがあると予想したときに発表しています。この情報が発表されたときは、「土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）」において「警戒」（赤色）が出現している又は出現しようとしていることを意味しており、市町村から警戒レベル3 高齢者等避難が発令される状況です。「警戒」（赤色）のメッシュ内の土砂災害警戒区域等にお住まいの高齢者等の方は速やかに避難を開始してください。
土砂災害警戒情報	大雨により、命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、都道府県と気象庁が共同で発表しています。この情報が発表されたときは、「土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）」において「危険」（紫色）が出現していることを意味しており、市町村から警戒レベル4 避難指示が発令される状況です。「危険」（紫色）のメッシュ内の土砂災害警戒区域等にお住まいの方は速やかに避難を開始してください。
記録的短時間大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測した場合に発表しており、土砂災害等の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。この情報が発表されたときは、どこで土砂災害発生の危険度が高まっているかを「土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）」で確認してください。
土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）	大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを、地図上で5段階に色分けして示す情報です。常時10分毎に更新しており、大雨警報（土砂災害）、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。避難にかかる時間を考慮して、危険度の判定には2時間先の未来までの予測値を用いています。遅くとも「危険」（紫色）が出現した時点で、土砂災害警戒区域等の外へ避難することが重要です。

土砂キキクルの活用

（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）

～土砂災害から命を守るために～

土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）



気象庁HP「土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）」
<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/>

危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報とその利活用

気象状況	気象庁等の情報		市町村の対応		住民が取るべき行動	警戒レベル
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	キキクル 災害切迫 氾濫発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができます。命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。		5
大雨の数時間～2時間程度前	土砂災害警戒情報	危険	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4	
	※1 大雨警報 洪水警報	警戒	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するなど。	3	
	大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報	注意	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2	
大雨の半日～数時間前	大雨注意報 洪水注意報	注意	第1次防災体制 (連絡要員を配置)	災害への心構えを高める	1	
大雨の数日～約1日前	早期注意情報 (警報級の可能性)					

＜警戒レベル4までに必ず避難！＞

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成

1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。



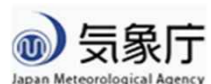
写真：広島市で発生した土砂災害
 （平成26年（2014年）8月20日気象庁撮影）



写真：熊本県芦北町で発生した土砂災害
 （令和2年（2020年）7月13日気象庁撮影）

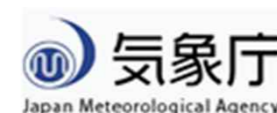


土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）を活用して、土砂災害から命を守るための方法について紹介します！



〒105-8431 東京都港区虎ノ門3-6-9
 TEL：03-6758-3900（代表）
 FAX：03-3434-9086（耳の不自由な方向け）
<https://www.jma.go.jp/>

令和4年6月



土砂災害は何に気をつけないといけないの？

急傾斜地や溪流の付近における土砂災害のリスク

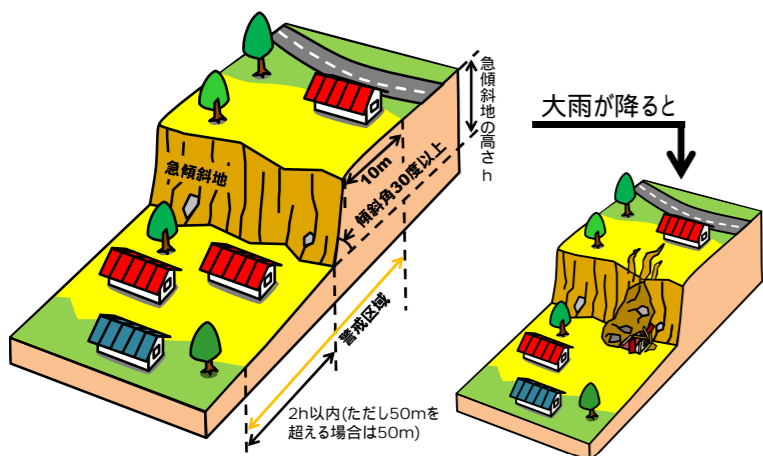
土砂災害は、建物に壊滅的な被害をもたらす一瞬のうちに尊い人命を奪ってしまう恐ろしい災害です。急傾斜地や溪流の付近など、土砂災害により命が脅かされる危険性が認められる場所は、都道府県が土砂災害警戒区域等に指定しています。

土砂災害警戒区域等は土砂災害ハザードマップで確認してください。また、これらの区域等にお住まいの方は、大雨のときには防災情報を活用して建物から立退き避難をすることが必要となります。

土砂災害警戒区域等に指定されているのは以下のような場所です。

【崖崩れ】

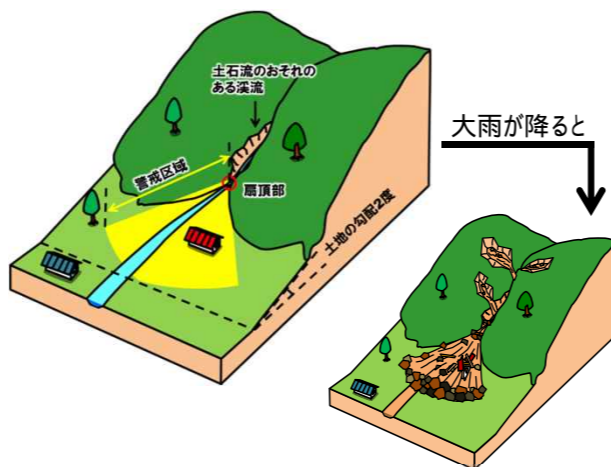
傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
急傾斜地の上端から水平距離10m以内の区域
急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍以内の区域
(50mを超える場合は50m以内の区域)



崖崩れ発生

【土石流】

土石流の発生のおそれのある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

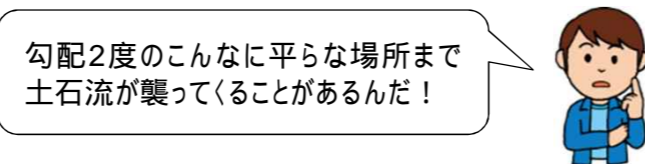


土石流発生

図：気象庁作成



崩れた土砂は崖の高さの2倍の距離まで襲ってくる可能性があるということね。



勾配2度のこんなに平らな場所まで土石流が襲ってくることもあるんだ！

急傾斜地や溪流の付近における土砂災害への対応策

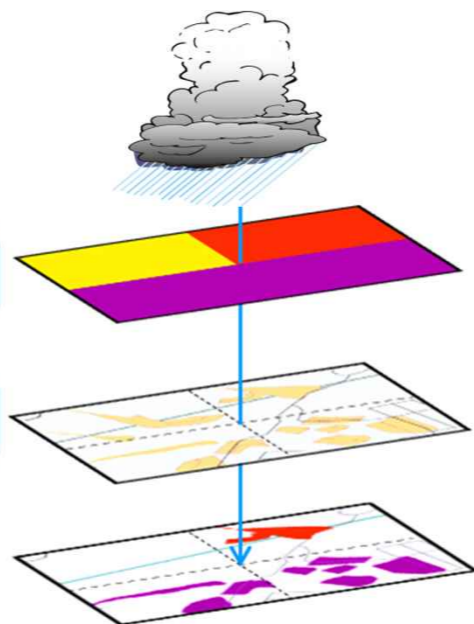
土砂災害は一瞬で命を奪う恐ろしい災害です。崖崩れや土石流の発生を確認してから避難するのでは間に合いません。

このため、土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨のときは災害発生の見込みに関する予測情報（土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）等）を活用することで、実際に災害が発生する前に、いち早く危険を覚知して早めに避難を開始することが大変重要です。

①大雨警報(土砂災害)の危険度分布

②ハザードマップ(土砂災害警戒区域等)

避難情報の発令対象区域



危険度が高まっているメッシュ内の土砂災害警戒区域等の建物からは立退き避難が必要ということね。

土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）の色とその意味

色が持つ意味	住民等の行動の例 ¹	相当する警戒レベル ²
災害切迫	命に危険が及ぶ 土砂災害が切迫 。土砂災害が すでに発生している可能性が高い 状況。 命の危険 直ちに身の安全を確保！	5相当
危険	命に危険が及ぶ 土砂災害がいつ発生してもおかしくない 状況。 土砂災害警戒区域等の外へ避難する。	4相当
警戒	高齢者等は土砂災害警戒区域等の外へ避難する。 高齢者等以外の方も、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする。	3相当
注意	ハザードマップ等により避難行動を確認する。 今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	2相当
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—

広島市で発生した土砂災害（平成26年（2014年）8月20日気象庁撮影）

黒は災害がすでに発生している可能性が高い

遅くとも紫で避難の判断を！

< 警戒レベル4までに必ず避難！ >

1 土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）に関わらず、自治体から避難情報が発令された場合には速やかに避難行動をとってください。

2 警戒レベルについては内閣府ホームページをご覧ください。



「災害切迫」（黒色）が出現すると、重大な土砂災害が**すでに発生している可能性が高い**状況となります。このため、高齢者等の方は遅くとも「警戒」（赤色）が出現した時点で、一般の方は遅くとも「危険」（紫色）が出現した時点で、土砂災害警戒区域等の外へ**避難**することが大変重要です。